

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		利用者の状態が徐々に重度化しており、外出時の介助の度合いも増してきている現状にあるが、各自の状態に合わせた取り組みや家族の協力を得ながら、なるべく外出機会をつくり、近隣の方との付き合いができるように配慮していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	公民館を利用し、地域住民対象に施設や介護の在り方についてなどの説明会を行った。また運営推進会議などの機会に地域の方々の意見を伺い、地域の中で役立つことを話し合っている。		折に触れ地域の方々との交流を通じて、そのニーズに添えるよう努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義の理解を深めるためにも、全職員個別に自己評価を行った。その結果、理解の深まりと共に改善すべきことの気づきが得られている。		評価の低かった項目に関して、今後改善すべき課題として施設全体で取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、現状で特に課題と思われる事柄について検討したり幅広い意見を募ることで、問題解決や次なる目標を見出すことに繋がっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護サービスの担当者が集まる介護サービス向上連絡会や、市で行われる講習会などへの積極的な参加及び相談員の訪問受け入れ等により、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の資料を職員に配布するなどして、理解を深めるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修に参加し、受講報告により職員全体の意識の向上に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時には訪問し在宅での様子も把握して、施設での安定した生活に反映されるように努めている。また、入所前に十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者に向けての御意見箱の設置や、日頃のこまめな声かけによって、いつでも意見や苦情を汲み上げられる体制づくりに努めている。またひとつひとつの意見の主旨を的確に受け止めて、できるだけ迅速に対応するようにしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月個々の健康の様子を報告する「健康だより」と、隔月で施設の活動や生活の様子を伝える「あじさい便り」を各家庭に送付している。また、金銭の出納などについても、書面で家族に定期的にお知らせしている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	定期的な家族会の実施や面会時の声かけなどで、積極的に家族の意見の汲み上げに努めている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	いつでも職員が自由に発言できる雰囲気づくりを心がけており、運営に意見を反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の状態やペースに合わせた職員のローテーションを組んでいる。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	常に職員の異動や離職を抑えるように努力している。やむを得ず変わる場合は、申し送りを徹底するなど、利用者へのダメージを最小限に防ぐように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規採用者はマニュアルに沿って指導を行い、年間計画に基づいて内部研修を行っている。職員の段階に応じて外部研修にも積極的に参加し、研修後は他職員に伝達している。ただし、日々の業務における意欲や技術の向上に関する取り組みについては、検討の余地がある。</p>	<p>現任職員各自の経験や力量に応じた継続的な育成方法についても更に工夫をして、適宜必要な研修が受けられる機会を作っていきたい。現在そのひとつとして、入居者のケアについて受持ち制を導入。職員各自が利用者により主体的に関わることで、やりがいやケアの向上につなげていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の介護サービス向上連絡会などで、意見交換や交流する機会を持ち、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。今後更に現場訪問等を含めて、職員が同業者との直接的な交流を深めることで、自らの業務を振り返る機会を作っていきたい。</p>	<p>同業者との訪問交流を計画している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的な親睦会を行ったり、運営者が日常的に職員の話をよく聴く機会を設けるように心がけ、各自のストレスの背景を理解するように努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者や職員の努力や実績、勤務状況などを常に把握するように心がけており、各自が向上心を持って働けるような環境づくりに努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用に至るまで、困っていることや求めていることなどを、必ず本人から直接聴き受け止めるように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分に時間をとって、家族の意向を聴くようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、ひとまず在宅において必要な介護サービスが活用できるように支援するなど、他のサービスの利用も視野に入れた対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安を感じている方には、お試し体験を取り入れるなどして、本人が安心・納得した上でサービスを利用できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得られた個人情報をもとにその人らしい暮らし方や力の発揮に活かし、共に支えあう関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に、家族との情報の共有を心がけ、常に共に支えあう関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の関係にも注意を払い、必要に応じて双方に働きかけるなどの支援を行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との繋がりを保てるように、電話や手紙などの通信支援を行ったり、家族や知人などの訪問の際には、居心地の良い雰囲気づくりに努める。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の良い関係づくりや、それぞれの力・個性を活かせるように配慮し、必要に応じて声かけを行い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用が終了しても、継続して関係が保てるように、その後の様子を尋ねたり相談を受けた際は誠意をもって対応している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者それぞれに合わせて、コミュニケーションを図り気持ちを受け止めて、暮らしや支援に活かすようにしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者や家族からの細やかな情報収集により、入居者の全体像を把握し、ケアに活かしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>常に本人・家族・職員間で情報を交換し共有するようにして、入居者一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族・必要な関係者などと話し合い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映させている。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況に変化があった場合は、本人や家族、必要な関係者と話し合い、計画の修正を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、健康状態や暮らしの様子、ケアの内容や身体状況等について記録して、職員間の情報の共有や介護の実践、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望によりデイサービスを利用することができ、他の利用者と交流しながら、リハビリやレクリエーションを行っている。また、同社の他グループホーム等入居施設の入居者とも、折りにふれて交流を楽しめるような機会を持って、生活がより豊かになるような支援を心掛けている。		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて、入居者の安否の見守りや日常生活を支える存在として、地域資源に働きかけている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と連携を取り、本人がより良く暮らせるように他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとしても日頃から連携が取れており、必要に応じて協働する体制になっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者本人や家族と話し合い、受診する医療機関を個別に決めている。協力医療機関とは別の病院への受診を希望する場合には、事前に必要な情報を提供した上で家族の協力を得て受診してもらい、受診結果は事業所側も把握するようにしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医ではないが、全般的に相談できる医師を確保している。必要に応じて専門医への紹介も行っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師により入居者の状況を十分把握し、医療を受けることに関して適切な助言が24時間可能な体制である。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中は見舞うなど病院との連携を密にして、早期退院に向けた話し合いをしている。退院時の指導などには職員が立ち会っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族の入居時や折々の意向を確認し、医師の助言も得ながら方針を決め、全員で共有している。ターミナルケアに関する「ご意志の確認書」をいただくようにしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所のできる介護の限度を見極め、家族や医師と共に連携を取りながら、チームとして支援に取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族や関係者間で十分な情報交換を行って、環境が変わることでの戸惑いを最小限にとどめられるように配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの思いや要望を常に大切にし、プライバシーやプライドを損ねない言葉かけや対応に配慮している。個人情報の取り扱いには十分注意している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望や嗜好・関心を見極め、それをもとに本人が選びやすい場面づくりをし、自分で納得しながら暮らせるように支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活ペースや、不安や混乱を起こしやすい時間帯を把握して、業務優先ではなくなるべく入居者と向き合うように工夫している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧品や衣類などの買物援助を行い、自由な装いを奨励して生き生きとした暮らしができるように支援している。理容・美容についてはできるだけ本人の希望に沿うよう努めると共に、月1回の訪問理美容も実施しており、希望者は施設の中でも理美容を楽しめるようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は楽しい雰囲気づくりを心がけ、準備や片付けなどにも楽しみながら参加できるようにしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望めば適量のお酒などの嗜好品は、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々にあった排泄支援を行っている。人前での声かけをしないなど、プライバシーに配慮している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については曜日や時間帯を設定してはいるが、入居者の希望やタイミングに合わせて楽しめるように柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活のリズム作りを心がけている。不眠の場合は原因を探り、それに合った援助を行う。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持ち味や個性を把握して、日々の生活の中で何らかの役割を担えるような場面作りに努めている。またそれが張り合いや喜びになるように支援しているが、利用者の状態によってはその十分な支援ができていない状況がある。		各利用者の状態の重度化に伴い、自分では楽しみごと等を作り難い状況になってきてはいるが、少しでも張り合いのある日々が送れるよう、職員主導ではなく個々の力を活かし自分本来の楽しみや役割、出番などを作り出せるよう、取り組みをしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、お金を所持することの安心や自信、買物をする楽しさを味わえるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など外出の機会を多く持つようにしている。近隣の行事にもできるだけ参加するようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望がかなえられるよう、可能な限り支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りができるよう、積極的に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の面会は歓迎し、居心地良く過ごしていただけるように心がけ、時には近隣の友人宅への訪問の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解し、現状では行わないことを徹底しているが、今後も様々なケースへの正しい対応ができるよう、更に認識を深める必要がある。		今後も入居者の安全を守るために、様々な工夫や根気強い取り組みが必要である。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	他の部署も含めて職員間の連絡連携を密にすることで、できるだけ安全で自由な暮らしができるように心がけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者にとって監視されているという心理的圧迫感をもたらさないように配慮して、安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者それぞれの状態に応じて、使用する際には職員が見守るなど危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止についてマニュアルやヒヤリ・ハットを作成し、再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えてのマニュアルを作成し、職員の周知徹底に努めているが、今後も継続的に知識・技術の習得に努めていく必要がある。		特に新規採用者への教育の徹底と、定期的なマニュアルの見直しや年間計画に沿った実践的な訓練を行う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からの指導を受けながら年2回の防災訓練を行い、災害時の避難方法について確認している。各居室に救護区分を表示している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に十分な説明を行い、リスクをできるだけ回避できるように情報交換をしたり、対応策を練っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に異変があった場合は、速やかに看護師や医師に連絡を取っている。また詳細に記録を残すようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理表により、薬の内容が把握できるようにしている。また服薬チェック表にて誤薬防止に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動や繊維質のメニューを取り入れたり、水分摂取にも配慮している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	時間を決めて各自口腔ケアを行うように支援しており、個々に応じたみがき方や義歯の取り扱い、口腔内の状態を職員が把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量・水分量については、チェック表を作成して把握している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり実施している。日々の生活の中で常に声を掛け合い、取り組んでいる。今後も継続的に知識の習得に努めていく必要がある。		マニュアルは定期的に見直しをして、継続的な学習ができるように計画する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際は必ず調理器具の消毒を行い、食器は高温洗浄器にかけ衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく季節感のある装飾や雰囲気づくりを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な温かみのある雰囲気であること、入居者にとって暮らしやすい環境であることを重視した共用空間づくりを目指している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内のみならず、芝生の庭にも椅子を設置し、自分の好きな場所で独りになったり、気の合う利用者同士で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた家具や生活用品の持ち込みなどを推奨している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内の臭気には注意しており、こまめに換気している。また各居室に寒暖計を設置し、温度調整に留意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況を考え、安全かつ便利な造作をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者が怯えたり混乱を招くような環境の原因には、迅速に対処している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や庭、ベランダなどで植木の手入れや洗濯物干し、日向ぼっこなどができるような空間の工夫をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は閑静な住宅街の中にあり、周辺の散歩道にはアジサイ通りを始め、四季折々の草花が楽しめる場所が多い。緑が豊富で癒しに恵まれた環境である。また居室から見下ろせる広い芝生の庭があり、日光浴や季節の草花が楽しめる他、一角に設けられた家庭菜園で野菜作りに取り組むこともできる。建物は明るく温かみのある木目調で、落ち着いた造りになっている。グループホームは左右対面型の2ユニットで2階に設けられており、1階に併設されたデイサービスに気軽に参加することができる。

このような大変恵まれた環境の他、職員の年齢層は厚く、その良さを活かしバランスの良いきめ細やかな支援が、当事業所の特徴である。利用者が地域の中で、その人らしく生き生きと暮らせるよう、職員一同ケアの実践に取り組んでいる。